



いざく



花いっぱい
汗いっぱい
笑顔いっぱい

<http://www.ed.city.hioki.kagoshima.jp/~izaku/blogn261/blognplus/>

伊作小ブログでは、学校の様子がたくさんご覧いただけます

児童数 239名 電話 099-296-2021



校内いろは歌カルタ取り大会（2月12日）

校長余談「火鉢といろいろとこたつ」

家で暖をとるのは火鉢がいろいろだった。火鉢は持ち運びできるので便利だった。時々、火鉢に乗ってまたがっているのを見つつかって、「罰があたっど！」と叱られた。祖母が火鉢を囲んで餅を焼いてくれた。醤油を着けては焼き、焼いては着けて、こんがりとした表皮は最高だった。専用の壺に消し炭の始末をさせられた。灰をかけて火を消した消し炭は、着火しやすいのである。いろいろは薪をくべて燃やすため、火の着きが悪いと煙が目にしみる。近付きたくもあり、逃げたくもあった。子どもの薪割りは重労働だったが寒さには替えられない。練炭や豆炭の登場でいろいろがこたつに変わった。とはいえ、いろいろに台をこしらえて毛布で囲った代物だ。掘りごたつでもないの、油断をするといろいろ枠から足を蹴落とされる。お陰で脚力や腹筋が鍛えられた。

本校でも、学校週五日制の趣旨を踏まえつつ、土曜日を効果的に活用できるよう、教育内容の充実と努めてまいります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

四、来年度の土曜授業実施予定日（二学期から実施）
 九月十二日、十月十日、十一月十四日、十二月十二日、
 一月九日、二月十三日、 計 六日

① 豊かな心を育む学習
 ② 「ひおきふるさと教育（小中一貫教育）」に資する学習
 ③ 来年度の土曜授業実施予定日（二学期から実施）
 ④ 九月十二日、十月十日、十一月十四日、十二月十二日、一月九日、二月十三日、計 六日

二月も半ばを過ぎ、草木のあちこちに春の兆しを見付けます。学校では、今年度のまとめをしながら、その反省を踏まえ、来年度の教育計画を作成しているところです。

さて、報道でも取り上げられた土曜授業の実施については、学校の設置者である各市町村教育委員会が決定権を有しています。そこで、本市では次のとおり実施することになりました。

一、基本的な考え方
 ○ 学校・家庭・地域が連携して、子どもたちの生きる力を育成するため、より豊かな教育環境を提供する。
 ○ 日置市の環境や伝統、人材を生かした活動や補充・深化学習等を組み合わせることで総合的な学力の向上を目指す。

二、基本方針
 ○ 原則、月一回程度とする。（原則：第二土曜日）
 ○ 授業は土曜日の半日単位とし、午前中に三時間の授業を実施する。
 ○ 教育課程に位置付けた授業を行う。 など

三、土曜授業の内容（例示）
 土曜日や各学校の特性を生かした多様な教育活動として、教科等の学習内容を深める多様な学習や体験活動

四、土曜授業の内容（例示）
 ① 豊かな心を育む学習
 ② 「ひおきふるさと教育（小中一貫教育）」に資する学習
 ③ 来年度の土曜授業実施予定日（二学期から実施）
 ④ 九月十二日、十月十日、十一月十四日、十二月十二日、一月九日、二月十三日、計 六日

土曜授業、二学期から

校長 野間芳人

校内いろはカルタ取り大会

2月12日（木）の高学年を始まりに、校内いろはカルタ取り大会が行われました。インフルエンザ感染の影響から、各学年で開催日を調整しながらの実施となりましたが、昨年の優勝者トロフィーに続き、今年は金・銀・銅メダルも準備され、意欲満々で行われました。



伊作は、島津中興の祖である島津忠良（日新公）及びその子どもたちが生誕された地です。「いろは歌」にもあるような気概を受け継ぎながら、郷土の良さを感じ、大切にしていける心を養ってほしいと願っています。

P T A 奉仕作業～亀丸城跡清掃・落ち葉拾い～

1月25日（日）に、第3回P T A 奉仕作業を行いました。子どもたちと熱心に作業をしていただき、またトラックを出していただいた保護者の方々のご協力で、スムーズに終了することができました。亀丸城跡がきれいになり、また、学級園にもきれいな花を咲かせることができます。ありがとうございました。



校内縄跳び大会

2月6日（金）の昼休みに児童会の体育スクラム委員会が企画運営した第1回短縄跳び大会が開催されました。昨年度同様、この大会を目指して、朝や昼休みに先生と一緒に縄跳びの練習をする様子が多く見られました。3月は長縄跳び大会です。



だれかのために～ボランティア・キャリア教育

朝の寒い風の中、朝から校庭を掃く5・6年生。今も冷たい土に指先を真っ赤にしながらか草を取る2年生。秋にはイチヨウの葉を必死に集めた3・4年生。



大人でも苦手だったり避けなくなったりしがちなことで、あえてさせなければ始まらないことでもあります。自分のしたいことを中心に考えがちな時代に、他の人のために何ができるのか考え動くことはとても大切です。震災時にも、生きる力となったのは支え合い・思いやりです。仕事に就いてからも「言われたこと、決められたことを終えたら、することがない。」大人にならないよう、励まし認めることで意欲を高めながら、ささやかでも自ら考え他のために貢献できること、よりよい仕事ができることに生きがいをもつ子どもを育てていきましょう。

育てよう「思いやり」

児童会の計画プランニング委員会が、「言われてウレシイ『ふわふわ言葉』」を募集し、ランキング発表しました。子どもたちが自ら思いやりを意識した活動ができることがうれしいですね。



- 第1位…ありがとう
- 第2位…がんばろう！
- 第3位…あそぼう
- 第4位…だいじょうぶ？

親の姿・教師の姿

いろいろな機会に保護者の皆様とお話をさせていただく中で、よく聞かれるのが、「子どもの教育の基本は、家庭ですから。」という言葉です。とても心強く、うれしく、ありがたく思います。

ある時、下校後に子どもの捜索をすることがありました。友達の家寄り道していたということで、あっという間に解決、下校指導の重要性を再認識しながらも、ホッとしていたところへ、保護者が子どもを連れて職員室へ入って来られました。そしてすぐさま大きな声で「すみませんでした！」と深々と頭を下げられました。その後、「あなたも謝りなさい!!」と子供にも同じことをさせました。子どもも涙を浮かべ「すみませんでした！」と。その場に出遭い、とても感動しました。「この保護者のもとで育つ子どもが曲がることはない。」と確信しました。

子育てに悩む保護者も多いかと思えます。しかし、最後は、親が自身の覚悟をしっかりとその姿で見せ、手本になることだと学びました。

教師も完全ではありません。いろいろなお声もいただきます。先ほどの保護者の行いに報いるよう、襟を正し、自分たちを常に磨きながら信頼に応えるべく努力してまいります。